



安曇野をアップルパイに詰め込んで

2/15 安曇野産リンゴを使ったアップルパイコンテスト

市内産のリンゴを使用したアップルパイのレシピを競う「アップルパイコンテスト」（市主催）の最終審査会が2月15日、豊科保健センターで行われました。この日は、安曇野調理師会、安曇野菓子製造組合の代表者が審査。次の5作品が選ばれました。入賞作品は、今後、店舗での提供や土産用に商品化を検討していきます。

【入賞者】（敬称略）

最優秀賞「安曇野がっパイ」本多斉恵（埼玉県蕨市）、**優秀賞**「アップル白鳥姫」野溝理恵（安曇野市）、**優良賞**「あっぷるぱい！おいしいってい〜」渡辺葵（愛知県立佐屋高校）、**審査員特別賞**「魚パイ」原山夏実（未来ビジネス専門学校）、「あずみ野リンゴの手包みパイ」武田英子（安曇野市）



地域活動のあり方を話し合う

2/28 つながりひろがる地域づくり事業成果発表会

市のつながりひろがる地域づくり事業の成果発表会が2月28日、市民活動センター「くるりん広場」で開かれました。この日は、市民など約30人が参加。本年度、事業の補助を受けた27の市民活動団体の中から5団体が活動成果を発表しました。発表後は、参加者が車座になり、各団体で抱える課題やその解決方法などを出しながら地域活動のあり方について意見交換しました。

デゴイチ 約40年ぶりにレールを走る

2/13 屋外展示・蒸気機関車 D51 移設作業

穂高有明に屋外展示されている市所有のD51型蒸気機関車（通称・デゴイチ）移設作業が2月13日から3日間の日程で行われました。

今回の移設は、展示場所として市が借用している民有地に太陽光発電施設が建つため、現在の場所から北東へ、約70メートルの場所へ車両を移動するものです。作業は、クレーンを使わず、移動用に仮のレールを敷き、車両を重機で引くことを何度か繰り返す、全国的に珍しい方法で行われました。初日となった2月13日には、レールの上を5分ほどかけて重機で車両を引き、約50メートル移動させました。

車両は、全長20メートル、重さ125トンで昭和15年から昭和51年まで使われ、旧穂高町が旧国鉄から無償譲渡を受け、現在の場所に展示したものです。

車両の保存活動を行っている「D51483保存会」会長の野中由紀子さんは「デゴイチの存在を多くの人に知ってもらい、親しんでもらえばうれしい」と話しました。



能の魅力は堅苦しさにある

2/14 葛西聖司さん講演会

第9回安曇野文化講演会（教育委員会主催）が2月14日、豊科交流学习センター「きぼう」多目的交流ホールで開催されました。市内で新能が上演されていることから、本年度は葛西聖司さん（元NHKアナウンサー、古典芸能解説者）が「能の見どころ聞きどころ」と題して講演し、約150人が聴講しました。

葛西さんは、ステージを降り、終始客席を回りながら「1回の舞台ですべてを理解しようとせず、静けさやその場の空気も楽しんでほしい」と話しました。

聴講した山田きよさん（豊科）は「女学校の謝恩会で能を見ました。講演を聞いて、また見たくなりました」と話しました。



工房での5年間を振り返り

2/28 あづみ野ガラス工房卒房展

豊科南穂高のあづみ野ガラス工房で、3月で同工房を巣立つ若手作家の卒房展が2月28日から3月9日まで行われました。本年は、高橋漠さんと宮本崇輝さんの2人がこれまで制作したガラスなど吹きガラス約100点を展示。高橋さんは「使う人のことなどいろいろ考えて制作するようになった」と工房での5年間を振り返り、宮本さんは「海外でさらに勉強したい」と次の目標を話してくれました。同工房には、高橋さんら多摩美術大学でガラス工芸を専攻した若手作家が5年間所属し、制作の傍ら工房運営もし、独立に備え研さんを積んでいます。

響く 防火・防災の音色

2/22 市消防団音楽喇叭隊コンサート

市消防団（寺畑佳司団長）による「吹奏楽と消防ラッパのコンサート」が2月22日、堀金総合体育館で開催されました。

この日のコンサートには約430人が来場。子どもから大人まで楽しめる曲目が次々と演奏され、迫力あるラッパと繊細な吹奏楽の共演に大きな拍手が送られていました。家族と訪れた有賀聖真くん（三郷温）は「好きな曲を聴くことができて楽しい」と笑顔で話していました。

市消防団音楽喇叭隊は、吹奏楽の音楽部と消防ラッパの喇叭部で構成。演奏活動を通じて、消防団員の士気高揚を図るとともに、消防団主催の行事や地域のイベントなどで、防火・防災の予防啓発活動を行っています。

市消防団への入団を希望する人は堀金支所内危機管理課（☎72・6769）またはお住まいの地域の消防団員までお申し込みください。

